網目状撚糸文の観察（１）

魚水　環

要旨　古墳時代前期の壺や高坏に施文される「網目状撚糸文」と通称される文様について、北本・桶川・上尾・川島の各市町域の出土遺物を集成し、代表的な遺跡について顕微鏡で観察を行った。その結果、①網目状撚糸文の施文具に大別してＡ：無節の糸を使うものＢ：単節の糸を使うものＣ：糸を使用しないものの３種類が存在すること、②使用される原体は遺跡ごとに偏った傾向を示すことが明らかになった。

手法と目的

現在の荒川中流域にあたる大宮台地西岸や、対岸の自然堤防上では、それまでの時代に比べて弥生後期～古墳前期に遺跡数が著しく増加することが知られている。これらの諸遺跡のうち、筆者は過年度に楽中遺跡（魚水 2017）の報告書整理に携わった。満足な報告ができたとは現在も思わないが、いくつかの知見は得られることができたと考えている。本稿では、楽中遺跡出土の古墳時代初頭の土器を実見して得られた知見を紹介し、またそれを基に、遺跡周辺の様相について実際に遺物を実見し、観察結果を述べてみたい。具体的には、①網目状撚糸文の施文具にＡ:無節のものＢ:単節のものＣ：撚糸によらない斜格子文の３つの種類があると考えられること、②遺跡（集落）によって使用する原体に偏りが見られることについて検証していきたい。また、今後調査範囲を拡大し、時期・地域によって差異が見られるか等を考えていくための端緒としたい。

さて、前述の地域においては、網目状撚糸文は五領式期の古段階に主として複合口縁壺の口縁外面や肩部にしばしば見ることができる（例：第１図１）。網目状撚糸文自体は特段に珍しいものということはなく、遅くとも弥生終末期には南関東に広く見ることができる。施文具については、大村直が房総半島の山田橋式について述べる中で網目状撚糸文について「山田橋大山台遺跡の安房形は、（中略）そのほとんどが付加条３種の可能性が高い」とし（大村 2009）、轟直之は「付加条３種の系譜も下総台地に求められる可能性がある」（轟 2015）とする。かつて篠原和大はＳ字状結節文を持つ文様に施文具の差から２系統があるとし、関東平野に異なる技術的系譜を持つ文化圏が存在するとした（鮫島 1994）が、例えば同様の現象が網目状撚糸文では見られないだろうか、と考えたことが本稿の着想に至った経緯である。

網目状撚糸文の観察

今回、楽中遺跡周辺の桶川市・上尾市・北本市、あるいは川島町の荒川中流域諸遺跡で見られる網目状撚糸文を持つ土器（土器片）を蒐集したところ、21遺跡から81点を抽出することができた(表１)。同一個体と思われるものもあるが、機械的に数えれば81点中72点と九割近くが壺に施文されている。次いで５点も小型壺への施文で、強く壺を意識された文様であることが窺える。この一方、４点と少数だが高坏に施文される例も複数存在している。

壺への施文については、小型壺や壺型土器も含めれば、口縁部が残っているものが40点あり、このうち複合口縁壺が32点と八割を占める。これ以外の８例は単口縁に施文されているが、これ

は上尾市稲荷台遺跡 10 号住居跡（第１図３）の例のように口縁が低く、球形胴を呈するものと、楽上遺跡試掘調査（第１図２）のように口縁が高く、胴部下半に最大径が見られるものとに二分されるようである。高坏への施文については、いずれも口縁外面の最上部に１段のみ施文されている。高坏への施文における伝統的な規範が網目状撚糸文にも適応されていると考えられるだろう（第１図 20 ～ 22）。

本稿では 81 点のうち比較的多量の網目状撚糸文が検出された富田後遺跡と稲荷台遺跡、白井沼遺跡、また筆者が報告書作成を担当した楽中遺跡について土器を実見し、それぞれの撚糸圧痕について観察を行った結果を記載する。なお、各遺物の撚糸圧痕は 0.5mm に満たない細いものも多く、肉眼での観察は困難であったため、今回の観察および撮影には USB 顕微鏡 UK-02 を用いた。

楽中遺跡

大宮台地西岸の、江川右岸上に立地する。江川右岸上では砂ヶ谷戸Ⅰ遺跡から楽上Ⅱ、楽上遺跡までの集落位置の遷移が想定され、周辺域の中心的集落と想定されている（吉川他　1977）が、網目状撚糸文は砂ヶ谷戸Ⅰ遺跡で２点、楽上遺跡で１点が出土するのみである。その楽上遺跡から 600m ほど下流側に位置する楽中遺跡では 5,030 ㎡が調査され、網目状撚糸文が７点出土している。口縁部片（複合口縁）３点、肩部片３点、頸部片１点で、肩部片１点は報告書非掲載資料である。１・４号住居跡のもの（第１図４・５）は、報告書では「撚りが観察されず、撚糸原体の単位が確認できないことから、網目状撚糸文を模して櫛状工具痕を交差させた文様」としたが、今回の撮影では双方とも撚糸圧痕（無節ｒ）が確認された（口絵２－１・２）。したがって報告書の記述は正確ではない。撚りは観察可能な６点中５点が無節ｒで、唯一 15 号住居跡出土のもの（第１図７）のみが無節ｌであった（口絵２－３）。一方、21 号住居跡（第１図８）および非掲載資料には単節Ｒが見られる（口絵２－４）。器面の劣化によりやや不明瞭であるが、粒状の圧痕を見て取ることができる。節の有無にかかわらず、原体はいずれも短軸絡条体第５類と思われるが、肩部など曲面に施文されていることから軸は棒状でない可能性もある。これは４号住居跡出土の口縁部片に、施文の起点になるとみられる痕跡が多数残ることからも想定できる。撚糸文の条の太さは最も細いもので 0.4mm、最も太いものでも 0.6mm 程度と非常に細い。

稲荷台遺跡

大宮台地西岸の、荒川に臨む台地上に立地する。現在までに４次にわたる調査で約一万㎡が調査されており、これは周辺の諸遺跡の中でも有数の規模である。規模に応じるように網目状撚糸文は 11 点が出土しており、隣接する薬師耕地前遺跡も含めれば 16 点を数え、そのすべてが壺である。薬師耕地前遺跡で方形周溝墓から出土した２点を除いては住居跡からの出土である。内容はほぼ完形のものが２点、上半が残るもの３点、口縁部片（複合口縁）３点、肩部片８点である。稲荷台遺跡内で網目状撚糸文が出土した住居跡は北側より南側へ偏って分布しており、集落の移り変わり（石坂　2000）を想定する上では集落の開始からやや遅れた段階に位置づけられるであろう。書上元博が設定した編年（書上　1994）上においては第１段階（後）に相当する。

実見できた９点のうち、撚糸圧痕が確認されたのは７点で、そのすべてが無節ｌであった。圧痕が確認できなかった２点のうち、53 号住居跡出土のもの（第１図 13・口絵２－９）は器面の劣化が見られないにもかかわらず、撚糸圧痕が全く観察されず、網目を形作る線もランダムなため、撚糸文ではなく斜格子文であろうと思われる。条の太さは条線によって 0.33 ～ 1.5mm と幅があるが、起因するものは不明である。

富田後遺跡

大宮台地から荒川を挟み、対岸に形成された微高地上に立地する。旧河道の激しい蛇行によって形成された自然堤防上には、富田後遺跡の他にも尾崎遺跡や元宿遺跡、後述する白井沼遺跡等が形成されており、この時期に旧河道の低地を目指して集落が進出してきた様相が見て取れる。発掘調査面積は 9,900㎡に及び、この周辺の荒川右岸では有数の規模である。網目状撚糸文は 14 点が出土している。壺が 10 点、壺型土器が３点、高坏が１点であるが、壺型土器は坩に近い形状のものが１点見られる（第１図 17)。網目状撚糸文は富田後遺跡のⅠ期～Ⅱ期（鈴木　2011）にかけて一定期間存続するようで、文様壺の消長を示すかのように施文が乱れた網目状撚糸文も井戸跡等から出土している。部位としては、壺の完形品が２点、口縁部片が８点（計 10 点とも複合口縁）壺型土器は小型壺に２点完形品がある（うち複合口縁は１点)。

実見できたのは 14 点中 13 点で、このうち撚糸圧痕が確認できたのは 10 点である。６点が無節ｌ、２点が無節ｒで、非常に不明瞭ながら単節Ｌが疑われるものが 16 号周溝状遺構（第１図 14・口絵２－ 10）と６号方形周溝墓から１点ずつあった。撚糸文の条の太さは、0.3mm ときわめて細いものから 0.7mm 程度のものまで見られるが、0.5mm 以下の非常に細いものが 11 点と多く見られる。

白井沼遺跡

富田後遺跡と同様に、荒川右岸の自然堤防上に立地する。３次にわたる調査で、合計 8,700㎡の面積が調査されている。網目状撚糸文は 14 点出土しているが、第１・３次調査範囲（6,700㎡）からは１点、第２次調査範囲（2,000㎡）からは 13 点と遺物の分布に差が見られる。14 点の内訳はすべて壺で、口縁部片７点(うち複合口縁６)、肩部片７点（註 1）がある。

実見できたのは 14 点中 12 点で、このうち撚糸圧痕が確認できたのは 11 点である。６点が無節ｌ、２点が無節ｒと思われ、さらにやや不明瞭ながら単節Ｒと思われるものも３点確認された。単節Ｒと思われる撚糸圧痕をもつ６a 号溝出土遺物（第１図 19）については、第２図 14 に図示した。撚糸文の条の太さは、おおむね 0.3~0.5mm の範疇に収まるもので、いずれも細い。

まとめ

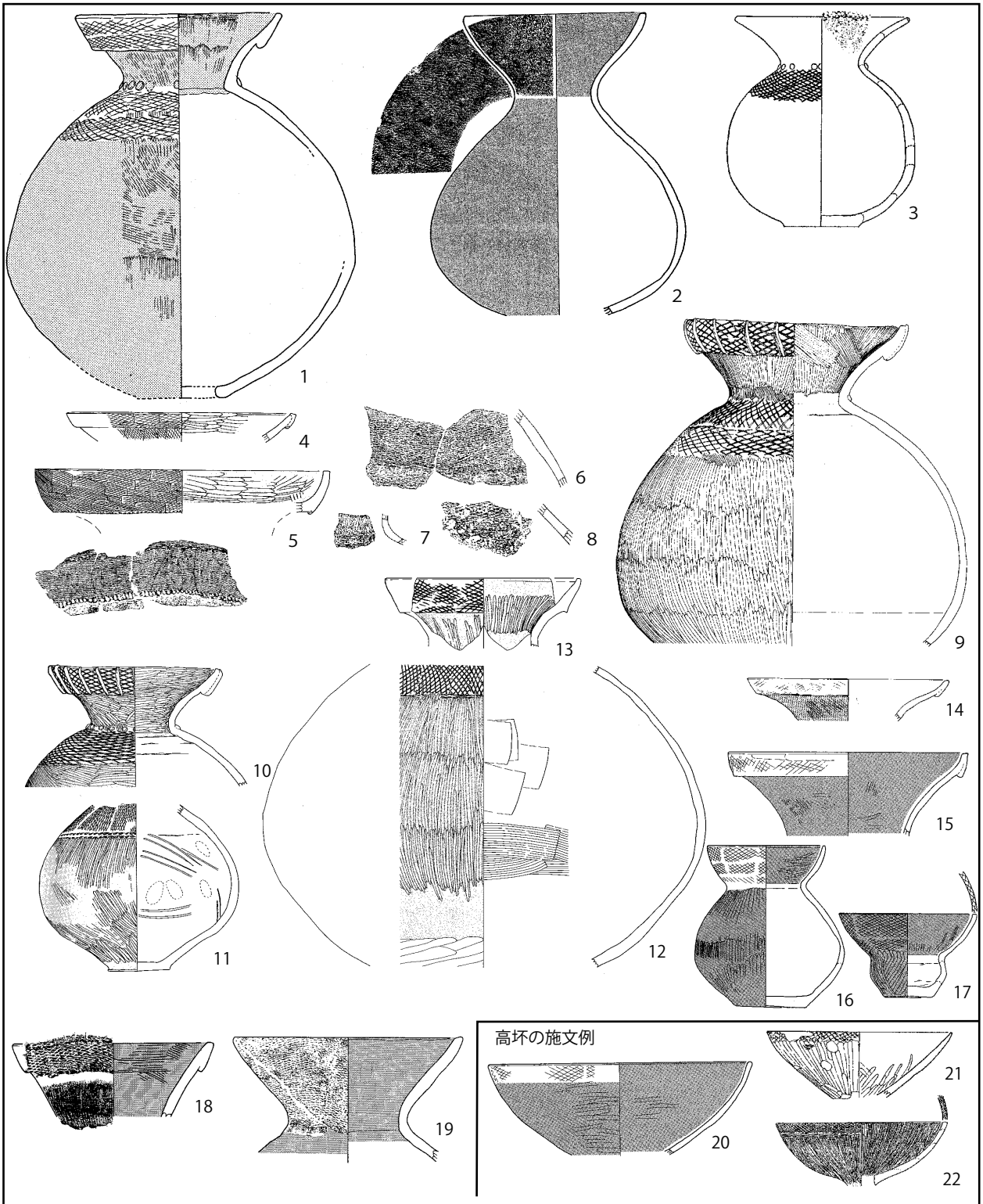
撚糸圧痕を観察できた 38 点のうち、無節ｌは 22 点、無節ｒは８点、疑い含む単節Ｌは２点、疑い含む単節Ｒは５点、斜格子文は１点という結果を得ることができた。有意な情報を得るには未だ調査数が僅少であるが、少なくとも種類の異なる原体が存在することは示せたように思う。

また、楽中遺跡では無節ｒが殆どであるのに対し、稲荷台遺跡ではすべてが無節ｌ、富田後遺跡では無節ｌを中心に無節ｒと単節Ｌ、白井沼遺跡では無節ｌを中心に無節ｒと単節Ｒと集落によって使用する原体に異なる傾向が見られることも母数が少ないなりには示せたように思う。

網目状撚糸文の原体を制作するにあたり、巻き付ける条は無節で十分作成可能（註 2）であり、単節である必要はない。単節の条を作成する必要を考えるならば、縄文の表現の一種と捉えることもできようが、1mm にも満たない太さの「縄文」にそのような意味を持たせることができるかは疑問ではある。

本稿では対象をきわめてローカルな範囲に限定し、さらに抽出品を基に検討を行った。文様としての網目状撚糸文は、弥生時代終末から古墳時代前期後葉まで見られるものであり、一時的なものとは言えない期間で継続する。その意味で本稿は時間的観点に欠けるものとなっている。次回以降に整理したい。

今後は検討の地理的範囲を広げ、さらに多くの点数を対象として網目状撚糸文について観察と思



1. 八幡原遺跡周溝状遺構　2. 楽上遺跡試掘　3. 稲荷台遺跡 (1979)10 号住居　4. 楽中遺跡 1 号住居　5・6. 同 4 号住居
7. 同 15 号住居　8. 同 21 号住居　9. 稲荷台遺跡 38 号住居　10. 同 43 号住居　11. 同 49 号住居　12. 同 51 号住居
13. 同 53 号住居　14. 富田後遺跡 16 号周溝状遺構　15. 同 D 区 26 号周溝状遺構　16. 同 E 区 4 号井戸跡
17. 同 D 区 34 号周溝状遺構　18. 白井沼遺跡 3 号周溝　19. 同 6a 号溝
20. 富田後遺跡 B 区 84 号溝　21. 八幡遺跡第 2 次 2 号住居　22. 領家・宮下遺跡第 1 号方形周溝墓

第 1 図　荒川中流域の網目状撚糸文（S ＝ 1 ： 5）

考を行っていきたい。

註１　このうち、同一個体が疑われるものが２点ある。

註２　節を作らずとも撚りがかかり、糸として成立するもの、具体的な材料としては大麻や苧麻が想定される。いっぽう節のあるものについては、材料の想定はできない。

引用文献

上尾市　1992『上尾市史　第１巻（資料編１原始・古代）』

上尾市稲荷台遺跡調査会　1979『上尾市稲荷台遺跡』

石坂俊郎　2000『稲荷台遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 239 集

石坂俊郎・関根訪　2004『北原遺跡第１次発掘調査報告書』

磯崎一・中山浩彦　2005『白井沼遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 315 集

磯野治司　1997『阿弥陀堂遺跡第１・２次調査』北本市埋蔵文化財調査報告書第６集

磯野治司他　1994『八重塚遺跡』北本市埋蔵文化財調査報告書第１集

磯野治司・齋藤成元　2009『八幡遺跡第２次調査・中井遺跡第２次調査・下宿遺跡第５次調査』北本市埋蔵文化財調査報告書第 17 集

今井正文・早坂廣人　1990『西Ⅰ遺跡』下日出谷西遺跡群発掘調査会

岩崎義信　2003『右撚り・左撚り－縄文の土器文様と紐の撚り－』長井市古代の丘資料館（長井市教育委員会）

魚水　環　2017『楽中遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 429 集

大村　直　2009「久ヶ原式と山田橋式」『南関東の弥生土器２～後期土器を考える～』六一書房

書上元博　1994『稲荷台遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 139 集

栗岡　潤　2007『白井沼遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 328 集

栗林洋子・赤石光資　1986『雨沼Ⅰ遺跡』上尾市文化財調査報告第 27 集

小宮山克巳　2007『領家・宮下遺跡－第１～３次調査－』上尾市文化財調査報告第 82 集

鮫島和大　1994「南関東弥生後期における縄文施文の二つの系統」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』第 12 号

鈴木孝之　2011『富田後遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 385 集

鈴木孝之　2009『元宿遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 365 集

関根　訪　1991『平成３年度桶川市遺跡発掘調査報告書』桶川市教育委員会

関根　訪　2001『平成 13 年度桶川市内遺跡発掘調査報告書　砂ヶ谷戸Ⅰ遺跡第３次調査』桶川市教育委員会

轟　直行　2015「弥生時代後期における下総台地の影響について」『列島東部における弥生後期の変革～久ヶ原・弥生町期の現在と未来～』六一書房

永久保Ⅰ遺跡発掘調査会　2000『永久保Ⅰ遺跡第１次発掘調査報告書』

野村侃司・赤石光資　1978『薬師耕地前遺跡』上尾市文化財調査報告第４集

氷川前遺跡発掘調査会　1991『氷川前遺跡発掘調査報告書』

藤沼昌泰　2005『平成 17 年度桶川市内遺跡範囲確認調査報告書』

藤沼昌泰・小川真　2011『平成 23 年度桶川市内遺跡範囲確認調査報告書』

村山　卓　2016『大平遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 424 集

吉川國男他　1977『砂ヶ谷戸Ⅰ・Ⅱ遺跡　楽上遺跡』桶川市文化財調査報告書第９集

吉見昭・齋藤成元　2003『八幡遺跡：個人専用住宅建設関係埋蔵文化財発掘調査報告書』北本市埋蔵文化財調査報告書第 13 集

第 1 表　荒川中流域の網目状撚糸文集成

No.	遺跡名	遺跡の場所	遺構	図版番号	施文部分	器種	撚糸の太さ (mm)	撚糸の方向	原体の回転方向	報告書	刊行年次
1	畔吉遺跡	上尾市畔吉		市史 378 図 5	口縁端部	壺			横	（概報）浦和第一女子高 （資料）上尾市史	1964
2	稲荷台遺跡 1 次	上尾市西貝塚	10 号住	第 36 図 2	口縁内面 肩部	壺		L	横	上尾市稲荷台遺跡調査会	1979
3	稲荷台遺跡 1 次	上尾市西貝塚	13 号住	第 42 図 2	口縁外面	壺			横	上尾市稲荷台遺跡調査会	1979
4	稲荷台遺跡	上尾市西貝塚	26 号住	第 14 図 1	肩部	壺	0.39	l	横	事業団報告書第 139 集	1994
5	稲荷台遺跡	上尾市西貝塚	38 号住	第 37 図 1	口縁端部 口縁外面・肩部	壺	1.5	l	横（口縁・肩下段） 縦（肩上段）	事業団報告書第 139 集	1994
6	稲荷台遺跡	上尾市西貝塚	41 号住	第 41 図 2	肩部	壺	0.43	l	横	事業団報告書第 139 集	1994
7	稲荷台遺跡	上尾市西貝塚	43 号住	第 46 図 1	口縁外面 肩部	壺	0.55	l	横	事業団報告書第 139 集	1994
8	稲荷台遺跡	上尾市西貝塚	43 号住	第 46 図 2	肩部	壺	0.58	l	横	事業団報告書第 139 集	1994
9	稲荷台遺跡	上尾市西貝塚	48 号住	第 69 図 1	口縁内面 肩部	壺	0.65	l	横（口縁） 縦（肩部）	事業団報告書第 139 集	1994
10	稲荷台遺跡	上尾市西貝塚	49 号住	第 73 図 2	肩部	壺	0.33	l	縦	事業団報告書第 139 集	1994
11	稲荷台遺跡	上尾市西貝塚	51 号住	第 80 図 1	肩部	壺	0.7	?	縦	事業団報告書第 139 集	1994
12	稲荷台遺跡	上尾市西貝塚	53 号住	第 82 図 1	口縁外面	壺	斜格子文		横？	事業団報告書第 139 集	1994
13	薬師耕地前遺跡	上尾市西貝塚		第 9 図 8	肩部	壺			横か	上尾市文化財調査報告第 4 集	1978
14	薬師耕地前遺跡	上尾市西貝塚		第 9 図 9	肩部	壺			横か？	上尾市文化財調査報告第 4 集	1978
15	薬師耕地前遺跡	上尾市西貝塚		第 9 図 11	口縁外面	壺			横	上尾市文化財調査報告第 4 集	1978
16	薬師耕地前遺跡	上尾市西貝塚	2 号方周	第 13 図 4	口縁端部 口縁外面 頸部～肩部	壺			縦・横	上尾市文化財調査報告第 4 集	1978
17	薬師耕地前遺跡	上尾市西貝塚	4 号方周	第 20 図 2	肩部	壺			縦？	上尾市文化財調査報告第 4 集	1978
18	雨沼 I 遺跡	上尾市平方字雨沼	1 号住	第 14 図 6	肩部	壺			横か	上尾市文化財調査報告第 27 集	1986
19	雨沼 I 遺跡	上尾市平方字雨沼	13 号住	第 53 図 5	肩部	壺？			横か	上尾市文化財調査報告第 27 集	1986
20	領家・宮下遺跡	上尾市領家字宮下	遺構外	第 17 図 116	肩部	壺			横	上尾市文化財調査報告第 82 集	2007
21	領家・宮下遺跡	上尾市領家字宮下	13 号住	第 62 図 40	肩部	壺			横	上尾市文化財調査報告第 82 集	2007
22	領家・宮下遺跡	上尾市領家字宮下	13 号住	第 62 図 41	肩部	壺			縦？	上尾市文化財調査報告第 82 集	2007
23	領家・宮下遺跡	上尾市領家字宮下	23 号住	第 71 図 23	口縁外面	高坏			横	上尾市文化財調査報告第 82 集	2007
24	領家・宮下遺跡	上尾市領家字宮下	15 号住	第 75 図 38	口縁外面	壺			横	上尾市文化財調査報告第 82 集	2007
25	領家・宮下遺跡	上尾市領家字宮下	15 号住	第 75 図 39	頸部	壺			横	上尾市文化財調査報告第 82 集	2007
26	領家・宮下遺跡	上尾市領家字宮下	15 号住	第 75 図 47	口縁端部 ・口縁外面	高坏			横	上尾市文化財調査報告第 82 集	2007
27	領家・宮下遺跡	上尾市領家字宮下	1 号方周	第 14 図 40	肩部	壺			横	上尾市文化財調査報告第 82 集	2007

№.	遺跡名	遺跡の場所	遺構	図版番号	施文部分	器種	撚糸の太さ(mm)	撚糸の方向	原体の回転方向	報告書	刊行年次
28	領家・宮下遺跡	上尾市領家字宮下	1号方周	第14図41	肩部	壺			横	上尾市文化財調査報告第82集	2007
29	大平	桶川市川田谷字大平	グリッド	第85図1	肩部	壺	0.44	r	横	事業団報告書第424集	2016
30	北原遺跡	桶川市川田谷字北原	1号住	第6図7	肩部	壺			縦か？	北原遺跡第1次発掘調査報告書	2004
31	北原遺跡	桶川市川田谷字北原	1号住	第6図8	肩部	壺			縦か？	北原遺跡第1次発掘調査報告書	2004
32	砂ヶ谷戸Ⅰ遺跡	桶川市川田谷字地神	3号地下式壙	第15図6	口縁外面	壺型土器			横	平成3年度桶川市遺跡発掘調査報告書	1991
33	砂ヶ谷戸Ⅰ遺跡	桶川市川田谷字地神	3号住か	第12図52	肩部？	壺？			横	平成13年度桶川市内遺跡発掘調査報告書	2002
34	永久保Ⅰ遺跡	桶川市川田谷字永久保	2号住	第11図3	頸部	壺			横	永久保Ⅰ遺跡第1次発掘調査報告書	2000
35	八幡原遺跡	桶川市川田谷字東台	周溝状遺構	第7図5	口縁外面	壺			横	平成17年度桶川市内遺跡範囲確認調査報告書	2005
36	八幡原遺跡	桶川市川田谷字東台	周溝状遺構	第8図1	口縁外面・肩部	壺			横	平成17年度桶川市内遺跡範囲確認調査報告書	2005
37	氷川前遺跡	桶川市川田谷字氷川前	1号溝	第15図28	肩部	壺			横	氷川前遺跡発掘調査会	1991
38	楽上遺跡	桶川市川田谷字楽上	試掘	第46図3	口縁端部・口縁外面	壺型土器			縦	平成23年度桶川市内遺跡発掘調査報告書	2011
39	楽中	桶川市川田谷字楽中	1号住	第72図1	口縁端部・口縁外面	壺	0.44	r	横・縦	事業団報告書第429集	2017
40	楽中	桶川市川田谷字楽中	4号住	第76図1	口縁端部・口縁外面	壺	0.3	r	横	事業団報告書第429集	2017
41	楽中	桶川市川田谷字楽中	4号住	第76図10	肩部	壺	0.38	r	横	事業団報告書第429集	2017
42	楽中	桶川市川田谷字楽中	15号住	第84図3	頸部	壺	0.38	l	縦	事業団報告書第429集	2017
43	楽中	桶川市川田谷字楽中	21号住	第89図1	肩部	壺	0.4	R?	横	事業団報告書第429集	2017
44	楽中	桶川市川田谷字楽中	グリッド	第103図4	口縁外面	壺	?	?	横	事業団報告書第429集	2017
45	楽中	桶川市川田谷字楽中	グリッド	非掲載	肩部？	壺？	0.4	R?	横	事業団報告書第429集	2017
46	西Ⅰ遺跡	桶川市下日出谷字西	1号住	第10図1	口縁外面	壺			横	下日出谷西遺跡群発掘調査会	1990
47	西Ⅰ遺跡	桶川市下日出谷字西	5号住	第11図25	口縁外面	壺			横	下日出谷西遺跡群発掘調査会	1990
48	白井沼Ⅰ	川島町白井沼	1号周溝	第11図7	肩部	壺	0.44	l	横	事業団報告書第315集	2005
49	白井沼Ⅰ	川島町白井沼	1号周溝	第11図8	肩部	壺	0.41	l	横	事業団報告書第315集	2005
50	白井沼Ⅰ	川島町白井沼	1号周溝	第11図9	肩部	壺	?	?	横	事業団報告書第315集	2005
51	白井沼Ⅰ	川島町白井沼	1号周溝	第11図10	肩部	壺	?	?	横	事業団報告書第315集	2005
52	白井沼Ⅰ	川島町白井沼	1号周溝	第13図54	肩部	壺	0.47	l	横	事業団報告書第315集	2005
53	白井沼Ⅰ	川島町白井沼	2号周溝	第15図18	口縁外面	壺	0.51	l	横	事業団報告書第315集	2005
54	白井沼Ⅰ	川島町白井沼	3号周溝	第17図1	口縁端部・口縁外面	壺	0.46	l	横	事業団報告書第315集	2005

No.	遺跡名	遺跡の場所	遺構	図版番号	施文部分	器種	撚糸の太さ(mm)	撚糸の方向	原体の回転方向	報告書	刊行年次
55	白井沼Ⅰ	川島町白井沼	4号土壙	第33図94	肩部	壺?	0.5	r?	横	事業団報告書第315集	2005
56	白井沼Ⅰ	川島町白井沼	38号土壙	第37図242	口縁端部・口縁外面	壺	0.46	l	横	事業団報告書第315集	2005
57	白井沼Ⅰ	川島町白井沼	6a号溝	第43図6	口縁外面	壺	0.43	R	横	事業団報告書第315集	2005
58	白井沼Ⅰ	川島町白井沼	6a号溝	第43図12	口縁外面	壺	0.27?	?	横	事業団報告書第315集	2005
59	白井沼Ⅰ	川島町白井沼	6a号溝	第43図13	肩部	壺	0.47	R?	横	事業団報告書第315集	2005
60	白井沼Ⅰ	川島町白井沼	39号溝	第46図102	口縁外面	壺	0.3	R?	横	事業団報告書第315集	2005
61	白井沼Ⅱ	川島町白井沼	1号井戸跡	第60図1	口縁外面	壺	0.44	r	横	事業団報告書第328集	2007
62	富田後	川島町三保谷宿	3号周溝状	第39図4	口縁外面	壺	0.58	l	横	事業団報告書第385集	2011
63	富田後	川島町三保谷宿	10号周溝状	第109図13	口縁外面	壺	0.36	?	横	事業団報告書第385集	2011
64	富田後	川島町三保谷宿	16号周溝状	第117図1	口縁外面	壺	0.25	L?		事業団報告書第385集	2011
65	富田後	川島町三保谷宿	26・28号周溝状	第131図2	口縁外面	壺	0.48	?	横	事業団報告書第385集	2011
66	富田後	川島町三保谷宿	26・28号周溝状	第131図3	口縁外面	壺	0.49	r		事業団報告書第385集	2011
67	富田後	川島町三保谷宿	34号周溝状	第143図11	口縁端部・口縁外面	壺型土器	0.39	l	横	事業団報告書第385集	2011
68	富田後	川島町三保谷宿	16号周溝状	第208図1	口縁外面	小型壺	0.28?	?		事業団報告書第385集	2011
69	富田後	川島町三保谷宿	5号方周	第225図11	口縁外面	壺			横	事業団報告書第385集	2011
70	富田後	川島町三保谷宿	6号方周	第231図3	口縁外面	壺	0.33	L?		事業団報告書第385集	2011
71	富田後	川島町三保谷宿	9号井戸跡	第314図49	口縁外面・肩部	壺	0.44	l	横	事業団報告書第385集	2011
72	富田後	川島町三保谷宿	E区4号井戸跡	第319図123	口縁端部・口縁外面	小型壺	0.33	r	横	事業団報告書第385集	2011
73	富田後	川島町三保谷宿	E区7号井戸跡	第320図131	口縁端部・口縁内面	壺	0.7	l	横	事業団報告書第385集	2011
74	富田後	川島町三保谷宿	E区7号井戸跡	第320図132	口縁外面	壺	0.42	l	横	事業団報告書第385集	2011
75	富田後	川島町三保谷宿	34号溝	第377図16	口縁外面	高坏	0.34	l	横	事業団報告書第385集	2011
76	元宿	川島町三保谷宿	1号方周	第80図5	口縁外面・肩部?	壺	0.6	?		事業団報告書第365集	2009
77	元宿	川島町三保谷宿	SD87	第252図237	肩部	壺	0.52	l	横	事業団報告書第365集	2009
78	八重塚遺跡	北本市荒井6丁目	2号住	第32図3	肩部	壺		l	横	北本市埋蔵文化財調査報告書第1集	1994
79	八幡遺跡	北本市高尾6丁目	4号住	第21図4	肩部	壺			横	北本市埋蔵文化財調査報告書第13集	2003
80	八幡遺跡	北本市高尾6丁目	2号住	第8図10	口縁外面	高坏			横	北本市埋蔵文化財調査報告書第17集	2009
81	阿弥陀堂遺跡	北本市高尾7丁目	グリッド	第19図11	肩部	壺			横	北本市埋蔵文化財調査報告書第6集	1997